

令和5年度（2023年度）第2回みなみ野中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日 時	令和5年（2023年）8月26日（土） 9:30～12:00
場 所	みなみ野君田小学校 1階 多目的室
出席者	参加者：荒井、大倉、大淵、大山、川崎、小井戸、塩沢、田谷、野牧、斉藤 見学者：恒川 北野児童館：関戸 児童館統括担当：永井 高齢者あんしん相談センター片倉：安藤 はちまるサポート由井：千葉 経営計画課地域づくり担当：新納、興梠、橋本、田中 エックス都市研究所：田中、橋爪、堀岡
配布資料	第2回みなみ野中学校区地域づくり推進会議資料 資料1 みなみ野中学校区地域ワークショップの意見まとめ 資料2 みなみ野中学校区地域ワークショップ主な意見と推進計画への反映の方向性（案） 資料3 推進会議の体制（案）とモデル地区での検討状況 資料4 ワークシートプロジェクトPRシートを作成しよう（記載例） 令和5年度（2023年度）みなみ野中学校区地域ワークショップアンケート集計結果 令和5年度（2023年度）第1回みなみ野中学校区地域づくり推進会議議事概要

1 開会

経営計画課地域づくり担当より挨拶。

- ・第1回推進会議を見学された斉藤氏から推進会議参加の意向をいただいております、今回から参加いただく。皆さんご了承いただきたい。
→全員拍手で賛同
- ・今回見学者として、みなみ野中学校区地域ワークショップ参加者の恒川氏が参加する。

2 市からのお知らせ

会議資料を基に市から地域づくりフォーラム、地域づくり推進基本方針改定に向けた懇談会の設置について説明。地域づくりフォーラム及び懇談会に参加した野牧氏から感想などを共有。

（市からの説明内容）

- ・8月20日（日）に「つながりが未来をデザインする八王子市の地域づくり」をテーマに地域づくりフォーラムを開催し、263名が参加した。大学の先生による基調講演や、モデル地区である川口・長房中学校区の取組事例発表を行うほか、地域づくりに何が必要かについて市長を含めてパネルディスカッションを行った。パネルディスカッションには、みなみ野中学校区地域づくり推進会議を代表して野牧さんに登壇いただいた。
- ・令和2年（2020年）3月に策定した「地域づくり推進基本方針」について、これまで地域づくりの取組を進める中で出てきた課題を踏まえた内容にするため、今年度から改定作業を進めている。改定にあたっては、4中学校区の地域づくり推進会議メンバーや大学の先生による懇談会を設置し、検討を進めている。みなみ野中学校区地域づくり推進会議を代表して、野牧氏に懇談会の参加者となっていただいた。
- ・「地域づくりフォーラム」については、登壇者のロコミやパネル展示の関係者、広報などを見て参加した方など、まんべんなく参加していた印象である。取組が始まっている長房・川口中学校区の事例紹介では、お金や場所の問題、団体の住所がないなど具体的な話が出ていた。パネルディスカッションの中では、つながり

づくりは土台になるが、地域課題を解決する仕組みをつくっていく必要性について話をした。盛會に終わったフォーラムだった。(野牧氏)

- ・懇談会では、大学の先生方から、地域づくりを進めていくためには、地域課題の解決というところから入るのではなく、「楽しい」をコンセプトにすることが重要であり、楽しさがあることで人が集まり活動も続けられる、というご意見を話されていた。その先にあるものを意識して進めていければ良いと思っている。(野牧氏)

3 地域ワークショップの振り返り

資料2とアンケート集計結果を基に、地域ワークショップの振り返りと、推進計画への反映の方向性の説明を行った。

(追加意見)

- ・将来ビジョンの中に「集まり、つながり」というキーワードがあることから、地域の中にある様々な組織をつなげる機能を作ることが重要だと改めて感じた。また、「循環」というキーワードについては、学校に関わる地域の人などは毎年入れ替わるため、「担い手の循環」ということも考えていけるとよいのではと思った。
- ・組織のつながりを作るということは、推進会議のメンバーがアクションを起こすだけでなく、色々な人がやっているアクションを掘り起こし、見えるようにしてつなげていくということだと思う。アクションプランに情報発信が入っているが、発信する元がなければ情報発信はできない。個々で活動している地域の組織を掘り起こし、ホームページやSNSなどを活用して紹介していけると良い。
- ・「循環」ということでいうと、例えばみなみ野自然塾はまさに循環している組織と言える。20名程度のコアメンバーはいるが、小さいお子さんやその保護者がたくさん参加している。ある程度子どもが大きくなりライフスタイルが変化すると、子どもの参加は難しくなるが、また新たに小さなお子さんがある親子が入ってくる。同じメンバーだけで活動するのではなく、変化に応じて多様な経験をした人が加わることで循環し続けられるのだと思う。
- ・昔から住んでいた人と新しく入ってきた人が関わりながらまちをつくっていくことで、みなみ野の新しい文化をつくっていけるのではないかと感じている。
- ・学校を中心に活動できると良いという話があるが、学校は閉鎖的であるという意見もあった。まちに開かれた学校については、これからの時代の学校の在り方や、学校と地域の関係はどうするか、閉鎖性と開放性について多角的に考えてみたい。

4 議題「推進計画の検討」

会議資料、資料3を基にグループワークの説明。

(説明内容)

- ・地域づくり推進計画の主な要素は、「①魅力や課題」、「②将来ビジョン」、「③アクションプラン」であり、アクションプランの役割は、取組の紹介や仲間を増やすためのツールである。推進計画に盛り込むアクションプランについては、アクションプランの柱を示すにとどめる。メンバーの負担を軽減するため、具体的な取組内容については恒久的なものとしてまとめるのではなく、方向性を示すプロジェクトPRシートとして別冊にまとめる。
- ・地域ワークショップのアンケートでは、「地域のことを真面目に考えている人がこんなにいるとは思わなかった」「自分の住むまちに興味を持ち、他人事にはいけないという意識がでた」といった意見があった。メンバーの推進会議や計画に対する思いを写真等と一緒に盛り込むことで、より興味を持って読んでもらえる計画になると考えている。
- ・資料3では、推進会議の体制(案)として、全体会とコアなメンバーで構成する役員会(仮)の体制を示している。詳細は次回説明をする。

(意見)

- ・アクションプランを一冊にまとめると、変えにくくなってしまうため、別冊のほうが良いと思う。
- ・これからの行政の在り方としてこのような体制で進めざるを得ないと理解している。行政と地域がお互いに向き合うのではなく、両方が未来に向けて前を向いて行けると良いと思う。地域は生き物のようなものであるため、モデル地区と同様の掲載方法ではなく、アクションプランを別冊にし、随時更新できるようにすべきである。
- ・地域住民が組織を作るときの目的は、仕事における目的とは違い、千差万別である。その中でどのように共通の軸を作るのか、うまく融合できるかということが、共創の肝だと思う。みなみ野自然塾は里山文化をつなぐことを目的にしているが、単純に田んぼが好きな人たちによって成り立っているという面もある。目的のつながりをつくり、いかにたくさんの人が関わられるかが大事だと思う。
- ・地域の住民はとて多いため、それぞれの人がやりたいことがあったとき、メンバーが問い合わせ先になれるといい。「こういうことをやりたい」という人にアドバイスをしたり、人をつなげたりができると良いのではないか。

資料4「ワークシート プロジェクトPRシートを作成しよう」を参考に、アクションプランについて「居場所+ツーリズム」と「情報発信」の2つのグループで検討を行った。検討結果は、以下のとおり。

(検討結果)

(1) <居場所+ツーリズム>

- ・居場所は具体的な建物ではなく、イベント等も含め、みんなが集まる場所が居場所である。10人集まるところや100人集まるところがあっても良い。
- ・利用するのに料金がかかっても良い。
- ・いつでも行っていいんだよ、というところが日常的な居場所になるのではないか。
- ・つながる場所という考え方も必要ではないか。
→必ずしもつながらなくても良いと思う。一日中スマホを使っていて誰ともつながっていなかったとしても、その人が居心地がよく、充実した時間を過ごせれば良い。
→“居場所”というよりも、誰もが心を癒せる“場所”とう考え方が良いのではないか。
- ・孤立しないよう、外に出るような取組やそのきっかけになる場所があると良い。
- ・高齢者は診療所に集まるが、子どもたちは集まらない。また、中高年の男性は居酒屋に集まる。ターゲットを決めて居場所を考えた方が良いのではないか。
→ターゲットは全員である。
- ・日にちや時間帯によって居場所が変わっても良いのではないか。たとえば、どこかの施設等に場所を固定せず、今日はお祭り、今日は図書館でのイベントといった居場所の展開も考えられる。
- ・昨年の秋からみなみ野サロンをやっている。自分の居場所がない人や、一人暮らしの人などが来ている。地域包括支援センターの方が来ることもある。集まる人たちの中には、元お茶の先生などもいて、その人の特技を活かせる場にしたいと思っている。60代から90代の方が中心で、一人100円でお茶やコーヒーを提供している。サロンというと高齢者が集まる場所というイメージがあるかもしれないが、子ども食堂のように誰でも行くことが出来る場所が必要。サロンのイメージを変えて居場所にできると良い。
- ・お年寄りや子どもたちが集まれるような施設が駅前にあると良い。ふるさと納税でお金を集めることはできないか。
→市の施設があるため、新しい施設を作るのではなく、既存の施設を活かしたらどうか。
- ・みなみ野にどのような場所があるのか、どのような人がいるのかを見える化し、こんなことをしたい人はここにいくと良い、という情報をまとめてはどうか。既存の場所を回っていけるイベントなどを考えることもできると思う。
- ・ターゲットや目的、人数を絞る必要はないと思う。誰でも集まれる場所を作りましょう、というタイトルが

つけられると良い。

- ・のま小児科では毎年イベントをやっている。小児科のイベントを回ってもらうのも良いと思う。また、休診日は交渉次第で施設の一部を地域イベントで使用することも可能。
- ・学校も使えると良い。
→学校は安全性の面でしぼりがあり、敷居が高い。
- ・ひとり親や難病の方、高齢者のことも踏まえて考えたい。
- ・推進会議は、すでに活動をされている方々が集まっている。自分たちがやっている活動をつなぐような観点で考えていただければ良いと思う。(エックス都市研究所)
- ・まずは、地域で活動している人たちにどんな人たちがいるのかピックアップしたら良いのではないかと。今日のワークのメンバーの中でも、放課後子ども教室や日中の居場所づくり、サロンをやっている人がいるのに、お互いの活動を知らない。
→この人がこういうことをやっています、という紹介情報があると良い。
→ある程度、地域カルテに載っているが、載っていてもお互いに何をやっているか知らない。
→イベントを実施するときに、個人・団体の活動情報をPRするイメージが良いと思う。
- ・アクションプランの中で居場所づくりも大きな柱であるが、みなみ野は安全で過ごしやすい地域である。各地域で防災訓練をやっており、備蓄用の防災倉庫もある。2年前からは学校で地域の防災訓練をやるようになった。誰にとっても安心安全は重要なので、そういった視点も入れたらどうか。
→イベントの中で、防災倉庫等も含めてみなみ野の使える資源を知ってもらうのが良い。
→イベントで起震車やはしご車体験もできるかもしれない。
- ・毎年秋にお祭りをやっている。マルシェにしていろいろな人に来てもらうと良い。みなみ野駅前を借りるのは手配なども大変だが、のま小児科の駐車場を使うこともできる。メイン会場にできたら小児科の先生も喜ぶと思う。小児科の広告になるため、費用はいらない。みなみ野圏内で立ち寄ってもらいたいところや、他のお店などを回ってもらうのも良い。
- ・みなみ野版のいちょう祭りができると良いが、大がかりだと感じるのと、地域の各所にチェックポイントを設定し、写真を撮影して回る仕掛けがあると良いと思う。チェックポイントをお店に設定すれば、協賛をもらえるかも。
→回った先でプレーパークなど、子ども遊びができたら良いのではないかと。
→範囲を七国中学校区も含めて考えたい。
→まずはみなみ野中学校区で考えてもらいたいと、別の会議でも、範囲を広げたいという意見が出ている。必要に応じて範囲を広げていただいても構わない。(市)
- ・室内を使つてのプログラミング教室や屋外なら水鉄砲遊びなどをしても盛り上がるかもしれない。
- ・イベントタイトルは「みなみ野フェスタ」にしてはどうか。
- ・ワークショップ、マルシェ、ガレージセール、市場、庭先めぐりなども良いと思う。

(2) <情報発信>

- ・情報については、発信だけではなく、集約、発信、マッチングの流れがある。
- ・発信は外に向けてのものではあるが、地域内に何があるかがわかることも重要である。
- ・情報のプラットフォームという言葉はわかるようでわかりにくい。
- ・情報の「ハブ」とも言えるかもしれない。検討を深めるアクションは「地域情報コーディネイト」はどうか。
- ・まず情報を発掘して、集めて、発信する流れが考えられる。つなげるイメージがあるので、情報のマッチングも入れたい。情報を持っている人、発信する人もいる。
- ・コーディネイトを分解すると、発掘、集積、活用の流れがあると思う。
- ・参加したいというのは、何かやりたいというのがあると思う。そのためには、こんなことをやっている、という情報の集積が必要だと思う。
- ・自治会の活動のように、生活に必須なのに地味だから人が集まらないものもある。
- ・「ねらい」については、地域情報の発掘、と書けば、人・町のことなどすべてが含まれると思う。言葉として

は追加せず、このままで良い。

- ・もともと防災のために地域コミュニティ構想を作っていたという話があった。
- ・情報だけを発掘するのではなく、場所も含めて発掘する必要があると思う。
- ・マクドナルドがV字回復した理由の一つは、まずお店に来た人にファースト情報を流し、次にSNS、テレビ、という発信の仕方をした。みなみ野の場合、駅やアクロスモールなど人が集まる場所を活用するのが良いと思う。ほかに、SNSやYouTube的なものが考えられる。
- ・チラシも有効な手段である。
- ・ワークショップでは学校を活用するという意見が多かった。(エックス都市研究所)
→地域学校協働本部を去年立ち上げ、HPを作っている。Googleドライブに情報が入っていて、誰でも情報にアクセスできる形にすると良い。各団体に情報やチラシデータを入れてもらえるようにすれば、誰かが中心となって情報を更新する必要もない。そのQRコードを置いておくだけでもプラットフォームになる。
- ・発掘や発信のゆるいコーディネートから始められると良い。
- ・地域情報については、活動の情報だけでなく、人の情報や団体の情報もある。
- ・既に情報の発信元があれば、まずはそれらをネットワークすると良いかもしれない。(エックス都市研究所)
- ・つなぐにはシンプルに調査が必要かもしれない。まず推進会議メンバーを中心に広げていけると良い。
- ・イベントをやろうとすると、「こんな人いないかな」と探すため、人を集められるかもしれない。イベントをやるといろんな人が集まり発掘されるのではないかな。
→アクションが予備調査的なものになり、引っかけた人に声をかけていけると良い。
- ・いずれ七国中学校区地域づくり推進会議が立ち上がったとしたら、連携していくこともできると思う。
- ・八王子市全体の地域のつながりも大事だと思う。広がりがなければならない。
- ・最近、大学生が町会のイベントを手伝ってくれることもある。学びや働きに来ている人を巻き込んでいくのが良い。大学の先生方に上手くアプローチできるとつながりやすい。
→ボランティア活動が単位になっている大学もある。
- ・「こんなことできるは人いませんか」という呼びかけに対して「私出来ます」「できる人を知っています」のようなマッチングができる仕組みがあると面白い。
→「人財求人」のキーワードはどうか。
- ・つながるイベントから広がるイベントへ、というイメージが良い。
- ・地域活動等にアプローチをする際は、まずは情報を探るところから始まる。地域の情報を得られる方法があれば、一度地域を出た方も、発信される情報で地域とのつながりを継続することができ、戻りやすいかもしれない。まさに循環といえると思う。(エックス都市研究所)
→循環だけでなく、継承という意味合いも入れたほうが良い。
- ・以前作った地域カルテに掲載した人や団体、場所も踏まえ、つながっていけると良い。地域カルテに載せておしまい、というのではもったいない。
- ・情報のコーディネートとは、情報とセットで、ゆるく組織を作っていくということかもしれない。
- ・PRの内容としては、「地域カルテに登場する行事・団体・人財などがつながって、みんなで風を生み出そう。」が良い。
- ・懇談会で大学の先生から、地域課題から入ると続かないから「楽しい」ことが大切という意見があった。みんなそれはわかったうえで地域課題について話をしていたが、大学の先生は、続けることに主眼を置きすぎている印象があった。仕事ではないため、何のためにやっているのかという共通理念や思いでつながっていなければならないのではないかと考えている。
- ・情報発信のタイトルは、みなみ野に楽しみに来てほしい、10倍くらい楽しんでもほしい、という内容にしてはどうか。
→八王子にかけて8倍はどうか。
→末広がりだよと思う。横にしても無限大という意味もあると思う。

(話し合いの内容の共有・意見交換)

(1) <居場所+ツーリズム>

- ・具体的な取組として、「みなみ野フェスタ」を考えた。狙いは、みんなの交流の場を作り、そこを通じてみなみ野の資源を知ってもらい広げてもらうこと。のま小児科の駐車場をメイン会場としてマルシェ的なものを開催しつつ、ツーリズムの要素も加えて、みなみ野の各所にチェックポイントを設定(10か所くらい)し、巡ってもらいイベントをあわせて実施することを考えた。

みなみ野を巡るイベントでは、各チェックポイントの写真を3か所程度撮影してもらい、場所に応じてポイントを付与する。地元の企業にもスポンサーになってもらえると良い。立ち寄った場所で子どもが遊べるよう、プレーパークの方に来てもらうなど、地域の様々な団体と連携して開催したい。

(意見)

- ・なぜ、のま小児科なのか。

→休診日は交渉次第で無料で貸していただけそう。学校は駅から遠いため、駅から近いのま小児科が借りられると良いと考えている。

(2) <情報発信>

- ・「地域情報コーディネート」をテーマに検討した。タイトルは「みなみ野を8倍楽しむ方法づくり」とした。なぜ8倍かというと、八王子の8で、末広がり縁起が良く、8を横向きにすると無限大にもなるということから8倍とした。狙いとしては、地域情報の発掘と活用である。地域の情報とは、すでに行われている行事や団体がやっている活動などを極力活かすため、情報としてキャッチしたいと考えている。また、地元の活動団体だけではなく、地域外の団体ともコラボレーションができると思うので、そこを含めて発掘したい。人財についても、地域外の人も発掘したい。調査だけではなく、イベントをやることでいろんな人が出会い自然とつながることができると思う。こんなことをやるのだけどできる人いませんか、という人財求人、地域求人ができると良い。人が集まれば自然と情報がマッチングし、つながるイベントができれば人財や活動の輪も広がる。そこから良いものが継承されると考えた。

(意見)

- ・地域情報としては、読売新聞が出している「よみっこ」や、「八王子ジャーニー」でもみなみ野や八王子の情報が手に入ると思う。

5 議題「思いのページ」について

会議資料を基に、参加者の“思いのページ”について検討した。検討結果は、以下のとおり。

(検討結果)

- ・“思いのページ”はあった方がよい。柔らかい印象になる。
- ・2名か3名は、インタビュー記事にしても良いのではないかと。長いと読んでもらえないので、あまり文字は多すぎないほうがよい。
- ・推進会議メンバー全員分、20字くらいの短めのコメントと写真で掲載するのはどうか。100字超えると読まない。
- ・推進会議のメンバーの写真などを載せ、計画を見た人に興味を持ってもらえるきっかけになるとよい。計画の中の最初の方に盛り込みたい。(市)
- ・それぞれの似顔絵などイラストを入れても良いのではないかと。
- ・事務局側で体裁を整えても良いし、推進会議のメンバーで担当を決めて作っていただく形でもよい。(エックス都市研究所)
→事務局側で案を作ってほしい。

- ・1分程度の推進会議のメイキング映像をメンバーを集めて作ることができる。情報発信の一環として進めたい。
→楽しく見てもらえると良いと思う。
→市の公式の You Tube チャンネルがあるのでそこで発信することもできる。(市)

6 情報交換「みんなにシェア・みんなでシェア」

- ・みなみ野自然塾主催で、10月1日に稲刈り、その後脱穀のイベントがある。12月にはさつまいものツルとハーブを使ったリースづくり、その翌週には薫草を使ったお正月飾りづくりを行う。また、みなみ野自然塾のイベントではないが、ハムとベーコンの燻製づくりのイベントもある。すべてオープンイベントなので、子どもから大人まで、地域の方に参加してもらいたい。
さらに、まだ企画段階だが「みなみ野絵本村(仮称)」という、ログハウスで絵本100~200冊程度を展示し、絵本の読み聞かせなどのイベントを年に4回くらいやろうと計画している。一緒にやりたいという方がいたら、ぜひお申し出いただきたい。(荒井氏)
- ・はちまるサポートでは、地域の方の困りごとや相談を聞き、実際に訪問し一緒に考える活動をしている。また、民生委員を通じて畑を借り、社会とつながっていない方と畑づくりをしたりもしている。
11月11日(土)に、多様な若者が暮らせる地域をテーマに地域共生のまちづくり推進フォーラムを開催する。講師や医師を呼ぶので、ぜひ参加いただきたい。(はちまるサポート由井)
→チラシが出来たら、皆さんに市からデータを共有する。(市)
- ・ワークショップの意見で、子どもの預かり場所がすぐになくなるというコメントがあったことから、「縁・楽・結」の活動として、月水金曜日にもま小児科を借りて、来たい人は誰でも自由に遊びに来て良い時間を作った。私が助産師の資格を持っているため、新生児から小・中学生まで預かることができる。教育委員の後援をとっており、勉強を教えてくれる大学生や高校生にも来てもらう予定である。みなみ野小学校と君田小学校の低学年にはチラシを配布する。(小井戸氏)
- ・みなみ野小学校放課後子ども教室の取組として、子どもの不要品お譲り会を実施する。子どもに関する不要なもので、無料であげても良いものを必要な人に譲るという趣旨。物品を持ってきてもらい、必要な人に勝手に持って行ってもらう。引き取り手がなかったものは持ってきた人に引き取ってもらうようにする。詳細が決まり次第、また情報共有させていただく。(大淵氏)
- ・9月5日(火)のウェルシアパークの集会所でスローエアロビックを行う。由井市民センターみなみ野分館とアルプスにチラシを掲示している。また、9月末から由井事務所の2階で「スマートフォン相談会」を始める。今後回覧板でチラシを回すので、ぜひ参加していただきたい。(高齢者あんしん相談センター由井)

7 閉会

次回の第3回推進会議の日程確認を行った。

- ・令和3年(2023年)10月14日(土)9時半~12時、場所はみなみ野小学校2階家庭科室で開催する。

以上

ワークシート プロジェクトPRシートを作成しよう

グループ	居場所+ ツーリズム	みなみ野の 地域、 居場所づくり	メンバー ☆:リーダー	☆大淵、大倉、斉藤、小井戸、塩沢、田谷、川崎、恒川
------	---------------	------------------------	----------------	---------------------------

検討を深めるアクション：

タイトル	誰もが癒せる居場所づくり	全員の居場所	料金がかかる 居場所も良い	つながり？ つながらず 一人でも良い	その人が 充実した時間を 過ごせるところ
------	--------------	--------	------------------	--------------------------	----------------------------

ねらい	みなみ野は安全 で住みやすい (防災訓練、 地震体験) 安心安全のまち	安心安全の 居場所に みんな集まる
-----	---	-------------------------

イメージ	“具体的な場所” とは限らない	それぞれの人が やっている 活動を共有する	年代別に過ごせ るところ (サロン(高齢 者)、子ども食堂 など)	おまつり	学校開放 (安全性や ルール、しぼり が多い)	小児科の イベントめぐり (休診日)	使える施設が わかる マップ作り
	施設を 固定しなくても よいのでは？	ターゲットを 決める？ (中高年は居酒屋 など)	時間帯によって 集まる人が 変わる	【地域包括支援 センター】 60~90歳 場所や コーヒーを提供	ターゲットを 決める？ (中高年は居酒屋 など)	親子の対話が できる場所	駅前に大きな建 物が欲しい (ふるさと納税で お金を集め る?)
	・水鉄砲合戦 ・プログラミング 教室	助産院ほっこり ハウスで遊ぼう	【放課後子ども 教室】 物品お譲り会 小学生を見守る ボランティア活 動、学童とは別	【みなみ野サロ ン】 第2木曜日 10:30~12:00 みなみ野分館	防災学習会	のま小児科 遊びに来てね の日 月・水・木 15:00~17:00	

PR						
----	--	--	--	--	--	--

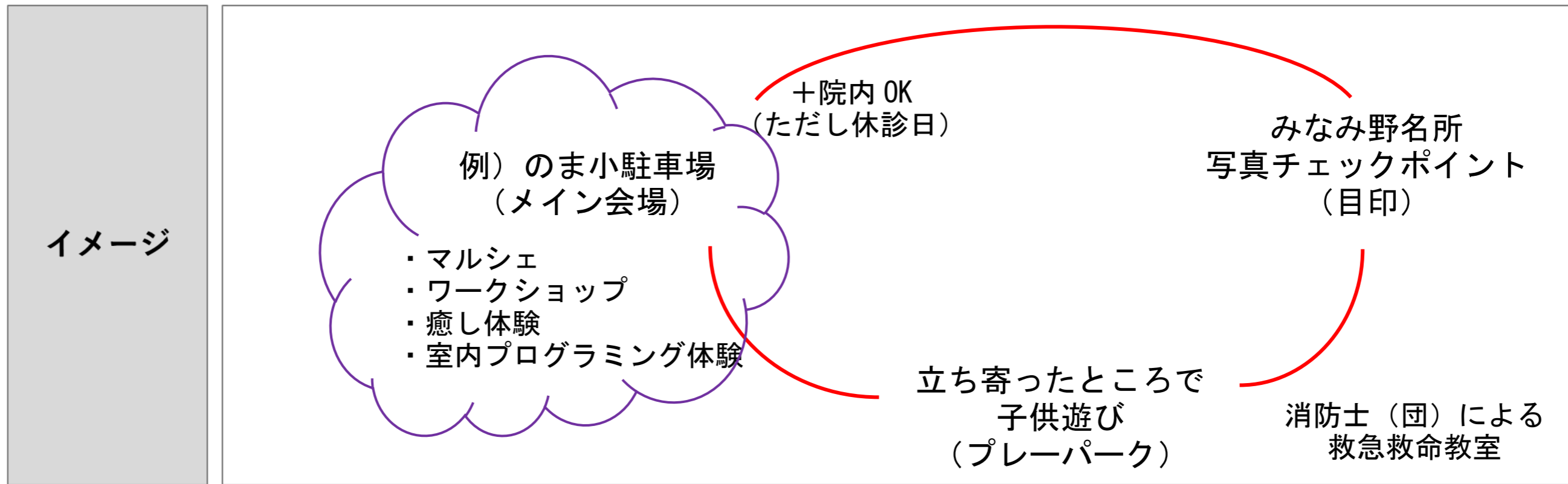
ワークシート プロジェクトPRシートを作成しよう

グループ	居場所+ ツーリズム	メンバー ☆:リーダー	☆大淵、大倉、齊藤、小井戸、塩沢、田谷、川崎、恒川
------	---------------	----------------	---------------------------

検討を深めるアクション：

タイトル	イベント的な居場所づくり 「みなみ野フェスタ」
------	-------------------------

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>資源を知ってもらう</u> ● <u>みんなの交流の場</u>
-----	---



PR	<ul style="list-style-type: none"> ● 他団体の協力 →8-bon、お店、ワークショップ、盆栽 ● 一緒にイベントづくりをチャレンジしましょう ● 企業の協力
----	---

ワークシート プロジェクトPRシートを作成しよう

グループ

情報発信

メンバー

荒井、大山、☆野牧

地域

☆:リーダー

検討を深めるアクション:

情報コーディネイト

横向きは∞(無限大)です

タイトル

みなみ野を8倍楽しむ方法づくり

ねらい

地域情報の発掘・活用

[YouTubeメイキング](#)

イメージ

地域情報

発掘

活用

- 行事 ・よみっ子
・八王子ジャーニー

- 調査

- まちのイメージづくり

- 活動団体
(地元+域外)

- つながるイベント
(団体タイアップ、
不特定多数団体参加型)

- 広がるイベント

- 人財 (地元+域外)
etc.

- 人財求人

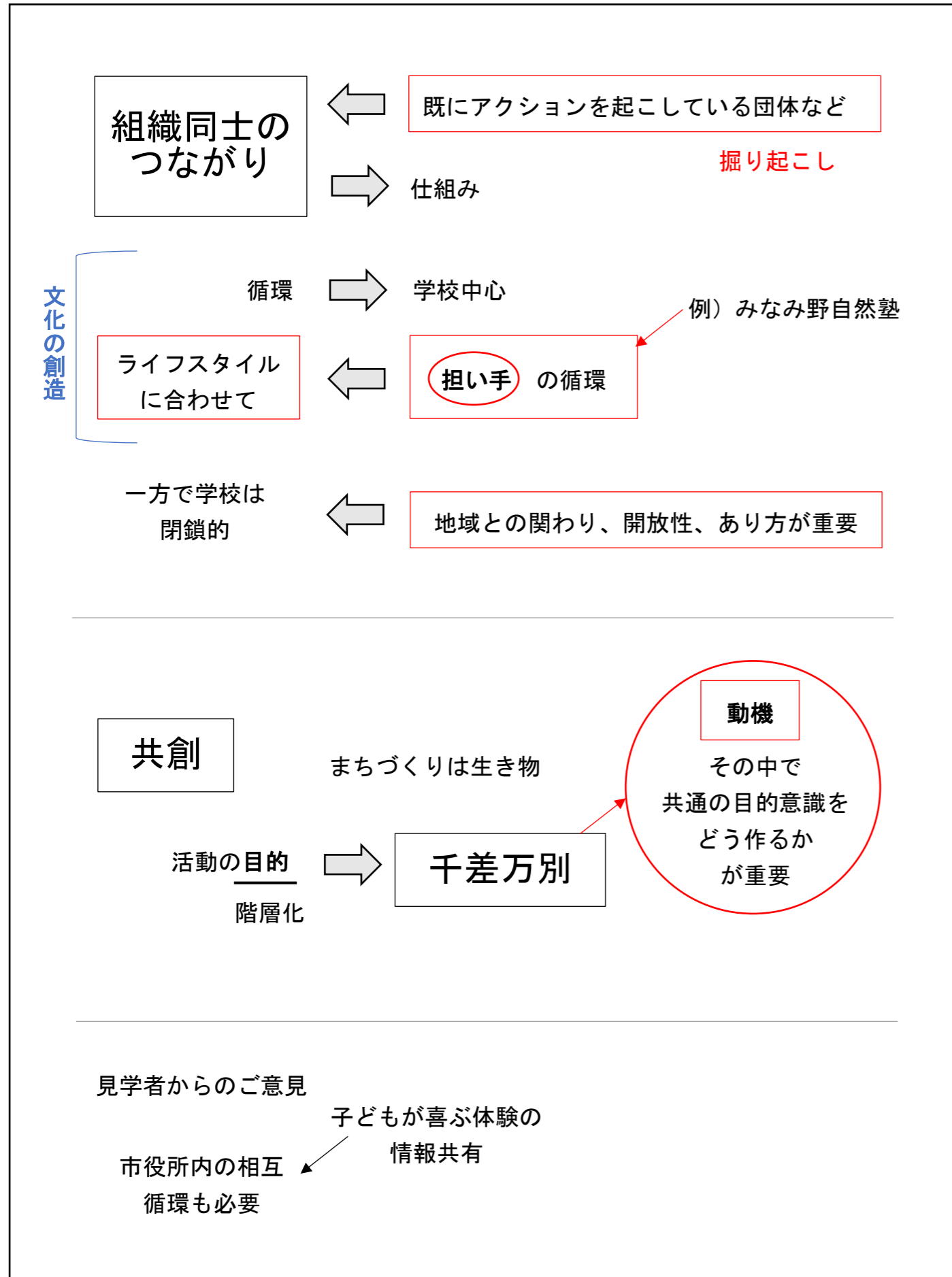
- 継承・循環

PR

地域カルテに登場する行事・団体・人財などが
つながって、風を生み出そう。

みんな

推進計画への追加意見（板書記録）



「思いのページ」について（板書記録）

